



がん診療相談室・がんサロン『ゆい』たより 新春号 令和4年1月

年が明け、寒さが一層身にしみる今日この頃です。このような状況の中ではありますが、相談員一同、皆様が安心して療養できるよう支援をしております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

磁気共鳴画像装置 (MRI) リニアックについて

東北大学病院
放射線治療科 神宮 啓一教授

一般的には高エネルギーのX線を照射する直線加速器(リニアック)という装置ががん治療を目的として普及しています。今回導入したMRIリニアックは、最新のリニアックと画像診断に用いるMRIが一体化している点です。MRIは被曝することなく鮮明に体内を描出できる装置です。しかし、MRIは常に磁場を発生しているため、これまでは磁性体の塊であるリニアックと一体化することができませんでした。特殊な技術によって1.5テスラという強い磁場を持つ高精度のMRIとその周りを回転する小型のリニアックが融合されています。オランダのユトレヒト大学が開発した装置で、導入されているのは世界的にも珍しい最新の装置です。

MRIと放射線治療が一体化することで、①軟部組織の抽出能力が高まり、正確な位置合わせができ、②放射線照射中に0.2秒遅れでMRI画像で体内を描出でき、呼吸などによる腫瘍の動きに合わせた精度の高い照射が可能であり、③functional MRIという機能で、放射線抵抗性と言われる低酸素領域を描出したり、どこに腫瘍細胞が多く残っているか判別できるなど、多くのメリットがあります。強度変調放射線治療(IMRT)の機能も併せ持っており、より正確にピンポイントで高い放射線量を照射することが可能となり、治療期間の短縮や治療効果の向上が期待されます。2022年2月中の稼働を目指しています。

様々ながん種に適応はありますが、東北大学病院では前立腺癌や腎臓がん、すい臓がんなどを対象に診療を開始予定です。診療費はすべて健康保険の適応ですが、照射方法により金額が異なりますので、担当医にお尋ねください。



まずは
担当医に
相談!

新刊書籍のご案内

がん診療相談室ではガイドラインをはじめ、多くの書籍を取り揃えて、閲覧、一人2冊まで2週間程度の貸出も行っています。

新刊の献本がありましたのでご案内します。今後、最新版のガイドライン、読み物なども追加予定です。

一般社団法人がんチャレンジャー

「がん罹患者にかかわる方必携 『寄り添い方』ハンドブック」

- 1章 やっていませんか? こんなコミュニケーション。
- 2章 カウンセリングマインドで寄り添うということ。
- 3章 「傾聴」で寄り添う。
- 4章 「受容」と「共感」で寄り添う。
- 5章 「声掛け」で寄り添う。
- 6章 事例

コラム 「がん対策推進企業アクション認定講師」からの寄稿(私がうれしかったかわり、など)



女子栄養大学出版部

「リンパ浮腫に悩んだらすぐに読みたい本」
「大腸がんになった料理家のごはん帖」

サロンはどうなっているの?

がんを経験された方、家族でなければわからない、さまざまな体験を共有し、ともに考えることができる仲間(ピア)とお茶を飲みながら話をするがんサロン『ゆい』茶話会は新型コロナウイルス感染症の蔓延を受けて昨年度から中止しています。多くの皆様から、再開のご希望がありますが集まることはまだ難しい状況です。

受診のついでにちょっとがんサロン『ゆい』に立ち寄ってお話をしていきませんか?

<皆様から寄せられた作品>

